

三月再オープンし、郡山会館とともにより利用しやすい施設になり宿泊・研修・保養の場として利用されている。以下、各事業について説明します。

## 福利・厚生事業

### 一 健康管理事業

#### (一) 人間ドック

教職員の健康管理の最重要事業として事業を実施している。

昭和五十八年度は、三十五歳、四十五歳、四十五歳、五十歳、五十八歳を除く五十五歳以上の教職員を対象に県内総合病院及び公立学校共済組合東北中央病院と契約し、検診人員二千四百一名の実施を予定している。受診コースは、日帰りドックと短期ドック（一泊二日又は二泊三日）の二コースがあり受診者の希望によりいずれかを選択し受診することになる。

最近の教職員の健康管理に対する意識の高揚もあって、年々受診希望者が増加しているが、本年も二千五百四十六名の申込みがあり、予定人員を百四十五名オーバーした。

オーバーした人員については全員補充者として欠員補充の対策とし、年度末まで一人でも多くの教職員が受診できるように態勢をとっている。

昭和五十八年度の実施計画は表1の

表1 昭和58年度人間ドック実施状況

医療機関	予 定 人 員	
	短期ドック	日帰りドック
東北中央病院（山形市）	100	
県保健衛生協会（福島市）	785	120
保原中央病院（保原町）	40	
太田総合熱海病院（郡山市）	380	120
公立岩瀬病院（郡山市）	40	
小野町地方総合病院（小野町）	40	
埴厚生病院（埴町）	40	
竹田総合病院（会津若松市）	80	
会津総合病院（会津若松市）	166	80
磐城共立病院（いわき市）	150	
松村総合病院（いわき市）	180	80
計	2,001	400

とおりであるが、受診決定者は早期発見、早期治療の立場に立って、この際万難を排して受診されたい。

昭和五十七年度の検診結果は、表2表3のとおりであるが、要精検、要治療と判定された者は医師の指示に従い必ず二次検診を受診して下さい。

(二) 婦人科検診  
女子教職員の成人病予防対策として子宮ガン検診、乳ガン検診を実施して

表2 昭和57年度人間ドック実施結果表

検査項目	指 導 基 準				受診者 (a)	指 導 基 準 別 比 率			
	A	B	C	D		A/(a)	B/(a)	C/(a)	D/(a)
一般理学	1,154	340	367	23	1,884	61.3	18.0	19.5	1.2
呼吸器系	1,490	289	101	4	1,884	79.1	15.3	5.4	0.2
循環器系	783	430	501	170	1,884	41.6	22.8	26.6	9.0
消化器系	1,038	327	479	40	1,884	55.1	17.4	25.4	2.1
腎機能	1,460	281	120	23	1,884	77.5	14.9	6.4	1.2
胆のう	1,279	41	56	13	1,389	92.1	3.0	4.0	0.9
肝機能	1,485	239	131	29	1,884	78.8	12.7	7.0	1.5
糖尿病	1,132	420	253	79	1,884	60.1	22.3	13.4	4.2
血液系	1,434	302	117	31	1,884	76.1	16.0	6.2	1.7
血清	1,796	66	22	0	1,884	95.3	3.5	1.2	0.0
外科	475	79	29	19	602	78.9	13.1	4.8	3.2
眼科	1,397	349	95	43	1,884	74.2	18.5	5.0	2.3
婦人科	360	70	21	23	474	75.9	14.8	4.4	4.9
延人員及び平均	15,283	3,233	2,292	497	21,305	71.7	15.2	10.8	2.3